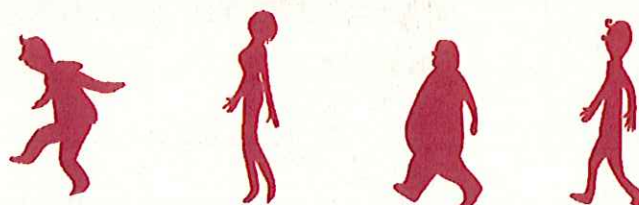


2014 年度

旭川ウェルビーイング・コンソーシアム

合同成果発表会抄録集

平成27年1月25日（日）



目 次

NO	演 題 ・ 所 属 ・ 氏 名	頁
1	考古出土品を復元するための三次元技術の活用 旭川工業高等専門学校 専攻科 生産システム工学専攻 村椿 信	4
2	マイクロ波加熱を利用した新規なメタン改質反応の実証的研究 旭川工業高等専門学校 専攻科 応用化学専攻 秋永 祐隆	4
3	バイオロジカルコントロールを用いた木材保存技術の開発 旭川工業高等専門学校 専攻科 応用化学専攻 渡部 智弘	4
4	旭医大生が考える旭川からの国際協力 旭川医科大学 医学部医学科 杉山 由夏	5
5	ボルネオ島の動物とヒト 旭川医科大学 医学部医学科 川尻 はるな	5
6	グループホームでの医療相談における看護職 ～介護期間の連携に対する価値のおき方 旭川医科大学 医学部看護学科 本間 千草、山川 蘭	5
7	看護学生の個人情報の認識がインフォーマルな場での取り扱いに及ぼす影響 旭川医科大学 医学部看護学科 廣川 舞、山田 絵美	6
8	旭川市役所総合庁舎建て替え計画 東海大学 芸術工学部 建築・環境デザイン学科（大野研究室） 中畑 彰	6

NO	演 題 ・ 所 属 ・ 氏 名	頁
9	東海大学旭川キャンパス再利用計画 東海大学 芸術工学部 建築・環境デザイン学科（田川研究室） 秋葉 淳一	6
10	茶道を広めるための方法 ～茶道を魅せる茶箱の製作～ 東海大学 芸術工学部 くらしデザイン学科 石橋 里	7
11	日本酒の文化継承と消費促進 ～ポスターとフリーペーパー～ 東海大学 芸術工学部 くらしデザイン学科 上野 志織	7
12	旭川市内における異世代交流の推進 ～あったかいね、あさひかわの実績報告～ 学生自主組織 はしっくす 旭川工業高等専門学校 電気情報工学科 林 広尚	7
13	東日本大震災被災地におけるボランティア活動からの学び 旭川大学 ボランティアサークル円陣～EnginE～ 佐々木 大彰、北井 夏弥、高木 翔太、新田 しおり、田中 光留 畠山 由衣、山口 万由、阿部 信太郎、河井 大輔、高嶋 拓人、 成田 明裕、野島 亮、小笠原 利奈、古館 由貴、花田 真澄	8
14	難病を抱えながら生活するということとは？ 旭川大学 保健看護学科 今野 雪絵、平田 薫、白塚 梨江、田中 光留、山口 万由	8
15	ラーメンによる“街の元気づくり”の試み 旭川大学 経済学部 江口ゼミナール 阿部 恵輔、飯田 誠也、泉 貴大、河井 大輔、川島 直也、中澤 和希	8

NO	演 題 ・ 所 属 ・ 氏 名	頁
16	小学校・中学校・高等学校の教科書に見る防災教育 北海道教育大学旭川校 生活・技術教育専攻（家庭分野） 吉田 祐貴、中村 麻衣子、小林 加代子	9
17	教育大生の災害に関する意識調査 北海道教育大学旭川校 生活・技術教育専攻（家庭分野） 谷口 裕貴	9

演題発表1 13:30～15:40

1 考古出土品を復元するための三次元技術の活用

所 属：旭川工業高等専門学校専攻科 生産システム工学専攻 2年

氏 名：村椿 信

考古学分野の考古出土品は、学芸員による記録および保管によって研究が進められている。このとき、学芸員による考古出土品の形状を写し取る技術が重要となる。一方、三次元技術の活用により三次元形状の計測や各種解析が可能になってきている。本研究では、三次元形状測定装置を用いて考古出土品の形状測定を行い、獲得した点群データに基づいて、三次元プリンタで復元品を製作したことおよび各種解析の結果について報告する。

2 マイクロ波加熱を利用した新規なメタン改質反応の実証的研究

所 属：旭川工業高等専門学校専攻科 応用化学専攻 2年

氏 名：秋永 祐隆

現在、燃焼時に CO_2 を発生しない水素を石油燃料の代替として利用することで、温室効果ガスの排出を抑制する「水素社会」を設計する計画が進められている。本研究では、マイクロ波加熱と触媒特性を利用してメタンから水素を直接分解反応($\text{CH}_4 \rightarrow 2\text{H}_2 + \text{C}$)によって製造する方法について研究している。直接分解反応は反応の過程で CO や CO_2 などの温室効果ガスを発生させないため、水素燃料電池などに利用する水素の製造方法として有用である。

3 バイオロジカルコントロールを用いた木材保存技術の開発

所 属：旭川工業高等専門学校専攻科 応用化学専攻 2年

氏 名：渡部 智弘

公園の遊具等に利用されている木製土木資材は、木材腐朽菌による生物劣化を受け、その結果本来の強度を失う。この対策として、木材防腐剤を注入・塗布する方法が確立している。しかし近年、化学物質過敏症が社会問題化したことなどから、防腐剤を使用しない脱ケミカルな手法が求められることがある。そこで本研究では、防腐剤の代わりに木材腐朽菌の天敵微生物（トリコデルマ属菌等）を利用する木材保存技術の開発を行った。

4 旭医大生が考える旭川からの国際協力

所 属：旭川医科大学 医学部医学科

氏 名：杉山 由夏

私たち I F M S A 旭川は今年度、エボラ出血熱啓発活動の一環として学生や旭川市民への募金活動と啓発活動を行なうべく、旭医 K E O (Kick Ebola Out) を立ち上げた。12 月 10 日に旭川市国際交流センターにて、国際協力について考えるワークショップを企画し、地域の高校生に対しエボラ出血熱に関する正しい知識を身に付けてもらうとともに、12 月 10 日の世界人権デーにちなみ、人権について考える場を設けた。

5 ボルネオ島の動物とヒト

所 属：旭川医科大学 医学部医学科

氏 名：川尻 まなみ

マレーシア・ボルネオ島。11 月初旬、旭山動物園 坂東園長を隊長に、市内の学生たちとスタディツアーに出かけた。多種多様な動植物たちの命が芽吹き、豊かな自然が広がっていた。野生の雄々しいアジアゾウ、目の前を悠々と歩くオランウータンの親子。しかし、今その美しい動植物が油ヤシプランテーションによって姿を消そうとしている。実際にボルネオ島を訪ね、見聞きした経験をもとにこれからの暮らしについて考察する。

6 グループホームでの医療相談における看護職 ～介護期間の連携に対する価値のおき方

所 属：旭川医科大学 医学部看護学科

氏 名：本間 千草、山川 蘭

グループホーム（以下 G H）での看護職と介護職との連携については、これまでも研究が行われてきており、両者の連携における職種間のとらえ方に違いがあることが明らかになっている。しかし、G H の入居者を中心とした連携の実態については既存の文献も少なく、まだ調査・改善・工夫が必要な状況であると考えられる。そして、介護施設と病院が医療相談してケアを行える環境をどのように作り継続していくか、ということが重要な課題である。本研究は、医療機関の看護職と G H の介護職の医療相談の実態を把握すること、両者がどのようなことに価値をおいているかを明らかにすることを目的とする。

7 看護学生の個人情報の認識が インフォーマルな場での取り扱いに及ぼす影響

所 属： 旭川医科大学 医学部看護学科

氏 名： 廣川 舞、山田 絵美

看護学生であっても、守秘義務・秘密保持といった医療専門職者としての資質が問われる。看護学生がパソコンにより実習記録を作成しており、インフォーマルな場での患者情報取り扱いの問題が指摘されている。プライベートでもSNSとの繋がりが多い。高度情報社会を考慮した個人情報の取り扱いについて、意識を高く持つ必要がある。実習時間外のインフォーマルな場において個人情報の取り扱いに迷いがある場合、実習の学びに影響を及ぼす可能性があると考えられる。それを明らかにした研究は見当たらなかった。よって、個人情報の認識・取り扱いの現状を明らかにすることを目的とし本研究を実施した。

8 旭川市役所総合庁舎建て替え計画

所 属： 東海大学 芸術工学部 建築・環境デザイン学科（大野研究室）

氏 名： 中畑 翔

旭川市における市庁舎は、竣工当初から建築界から絶大な評価を受け、旭川市がその後に取り組んだ公共施設における源流となった。市の変遷を見守り続けると同じく年を重ね、その古き功績と共に市民の記憶からも消えつつある。現市庁舎を市政の中心として継続できるよう再整備し、そこから生じる課題を解決するため、向かい合う様に“新市庁舎”を設計する。対比し、共存しあう2つの市政のハコが今後の旭川市の街並みをつくっていく。

9 東海大学旭川キャンパス再利用計画

所 属： 東海大学 芸術工学部 建築・環境デザイン学科（田川研究室）

氏 名： 秋葉 淳一

北海道第二の都市であり、家具の街とも言われている旭川。この地で数々のクリエイターを輩出してきた東海大学旭川キャンパスが、学生募集を停止して3年経つ。旭川キャンパスはまだまだ利用できる施設である。また人が集まり、地域文化に貢献できる新施設にするべく、旭川キャンパスを旭川家具総合販売所兼試作工場として再利用し、さらにデザインを学べる施設を附属させ、総合的に地域文化を成長させる複合施設を計画した。

10 茶道を広めるための方法

～茶道を魅せる茶箱の製作～

所 属： 東海大学 芸術工学部 くらしデザイン学科

氏 名： 石橋 里

茶道の人口の減少、文化の継承が難しい現状にあり、この解決を考える必要性がある。そこでデザイン面で関与できる啓蒙を行う。茶道という近寄り難いイメージを一般の人でも興味をもてるような表現で伝える。一般の家庭に違和感のないようディスプレイされるように視点的要素を考慮し、そして移動時を考えられた形を検討し、茶道具を収納する機能だけでなく「飾る」ことを考えたものを製作した。移動のことも考え、軽量化を重視して茶道具の良さ、美しさを理解してもらうようなもの、また季節感を感じることもできるものをポイントとした。そして日常の中で日本の文化が継承できる茶箱を製作した。

11 日本酒の文化継承と消費促進

～ポスターとフリーペーパー～

所 属： 東海大学 芸術工学部 くらしデザイン学科

氏 名： 上野 志織

日本酒は古くから飲み続けられ、多くの製造技術を取り込みながら成長してきた日本を代表するお酒です。しかし近年では海外で高い評価を受けているものの、国内では消費量も酒造数も減少しているのが現状です。そこで、日本酒の文化を継承をしていくため、新しい飲酒層としたい若い女性に向けた、日本酒の認知や消費を広げるためのポスターとフリーペーパーを提案しました。

12 旭川市内における異世代交流の推進

～あったかいね、あさひかわの実績報告～

所 属： 学生自主組織 はしっくす 旭川工業高等専門学校 電気情報工学科

氏 名： 林 広尚（はやし ひろなお）

学生自主組織はしっくすは、旭川の活性化を目的とした異世代交流事業を、年間通して行っている。昨年12月末に実施したイベント「あったかいね、あさひかわ」では、旭川市の活性化に貢献することを理念にしている市内の中高生団体4団体と共に9月より会議を重ね、企画運営を行いイベントの合同開催を行った。また、当日の運営には市内中高生約200名がボランティアとして参加し、市内学生の異世代交流の目的が果たされた。

13 東日本大震災被災地におけるボランティア活動からの学び

所 属： 旭川大学 ボランティアサークル円陣 ～EnginE～

氏 名： 佐々木 大彰、北井 夏弥、高木 翔太、新田 しおり、田中 光留
畠山 由衣、山口 万由、阿部 信太郎、河井 大輔、高嶋 拓人、
成田 明裕、野島 亮、小笠原 利奈、古館 由貴、花田 真澄

私たちは、2011年から岩手県宮古市内の仮設住宅でボランティア活動を行ってきました。今年度は2回の活動で計8か所を訪問しました。傾聴活動や食事会等を通じてより多くの人たちと出会い、さらに様々な視点から震災について考えることができました。同時に傾聴の難しさもまた感じました。毎回様々な課題が出てきますが、これからも必要とされる限りこの活動を継続していくつもりです。次回は3月の下旬を予定しています。

14 難病を抱えながら生活するということは？

所 属： 旭川大学 保健看護学科

氏 名： 今野 雪絵、平田 薫、白塚 梨江、田中 光留、山口 万由

私たちは講義の中で、また北海道難病連が主催するチャリティークリスマスパーティに参して難病を抱える方たちと出会い、直接声を聴きました。当事者を抱える苦しみや悲しみを乗り越え、痛みを耐え、そして楽しさを見つけながら生活されていることを学びさらに難病について深く知りたくなりました。北海道難病連の活動、また難病患者が抱える多くの社会的課題を踏まえながらここに報告させていただきます。

15 ラーメンによる“街の元気づくり”の試み

所 属： 旭川大学 経済学部 江口ゼミナール

氏 名： 阿部 恵輔、飯田 誠也、泉 貴大、河井 大輔、川島 直也、中澤 和希

旭川の活性化に向けたラーメンの可能性を考えたい。昨年、私たちは大雪さんろく祭りや駅マルシェなど4つのイベントで「江口ゼミ・経済学ラーメン」を出店して3,457杯を売上げ、「旭川ラーメン・ガイドブック」の作成に向け124店舗を聞きとり調査してラーメン313杯を食した。経営実践と実態調査の両面から、ラーメン業界を研究した。私たちの「ラーメンによる街の元気づくり」の概要と、そこで知り得た業界の魅力を報告する。

16 小学校・中学校・高等学校の教科書に見る防災教育

所 属： 北海道教育大学旭川校 生活・技術教育専攻（家庭分野）

氏 名： 吉田 祐貴、中村 麻衣子、小林 加代子

災害大国日本では近年さらなる防災教育の重要性が叫ばれている。しかし、学校教育においては災害全般を包括的に扱った授業は設けられておらず、防災についての取り組みも学校に裁量が任せられているのが現状である。そこで各校種の教科書内における災害・防災に関するページ数や語句数が、社会的な背景や学習指導要綱の変遷とともにどのように移り変わってきたか、年代別・教科別等に分けて調べたところ、変容が見られた。

17 教育大生の災害に関する意識調査

所 属： 北海道教育大学旭川校 生活・技術教育専攻（家庭分野）

氏 名： 谷口 裕貴

地震大国日本と呼ばれる災害の多い国に住む日本国民にとって、災害への備えや知識は必須である。自らの命を守るためには老若男女問わず、すべての人が災害への関心を持ち、防災対策を行なえなければならない。教育大学の学生に災害に関する知識や意識について調査を行ったところ、災害に関する関心は高いものの、避難訓練には本番を想定しないで参加するなど、災害に関する危機感は低かった。



一般社団法人 旭川ウェルビーイング・コンソーシアム

連絡先: 旭川市1条通8丁目108 フィール7階

電話: 0166-26-0338

URL: <http://www.awbc.jp/>